

ハラール認証から考える、日本に暮らすムスリムのいま

法学部三年 森原 彩子

法学部一年 中野 晃輔

ハラールフード、それはイスラム教の教えで「許されている」という意味を持つ、戒律に則して調理、製造された食品のことをいう。ハラールという言葉に限らず、イスラム教という宗教自体に十分な理解が日本においてはなされていない。東京都豊島区にあるモスク、大塚マスジッドには、ハラール認証を行っている宗教法人日本イスラーム文化センターのハラール認証委員トゥール＝ムハメットさんがいらっしやる。

日本イスラーム文化センターは、日本に流通する食品や加工品についてハラール認証を付与する活動を行っている。ハラール認証とは、ある食品がイスラムの戒律（例えば豚肉を食べることが禁止されている）に則して調理、製造されたことを証明する制度のことだ。また、2020年の東京オリンピック開催決定を受け、ハラール認証の申請が増加してきている。「イスラム圏の人にとって、日本は清潔で安心な国というイメージがあるので、抵抗なく訪れやすいと思います」。ムハメットさんは明るい表情で語る。「世界に16億人いるムスリムの市場に参入することは企業にとっても、大きなビジネスチャンスになるでしょう。」

日本イスラーム文化センターは、日本に住むムスリムと地域住民との交流にも力を入れている。実際に彼らは、ホームレスの方々への炊き出し、地元のお祭りへの積極的な参加などを定期的におこなっている。2011年に東日本大震災が起きた時には、いち早く被災地入りして救援活動に携わったり、救援物資や寄付金集めに奮闘したりしたそうだ。これらの活動についてムハメットさんはこう語る。「コーランの教えのなかに『喜捨』という義務があります。私たちは周りの人たちが苦しんでいるのを知っていながら、それを無視してその日眠ってしまっただけではならない、と教えられて育ったのです」

大塚マスジッドを訪れていた何十人ものムスリムの方々は、初めて出会った私たちをハラールフードで手厚くもてなしてくれた。バングラデシュで多く食べられているという香辛料の効いた米料理、煮込んだマトン、甘いくだもの、ラッシーなどヘルシーでおいしい品の数々。「信仰は違えども、同じ人間として日本の方々と一緒に暮らしたいと考えている。多様性というのは良いことなのです」

最後にムハメットさんが日本の生活での困難を語ってくれた。彼は企業でも働いている

が、日本の会社というのは頻繁に酒宴を張る。ムスリムの方々にとって“酒”は避けるべきものであり、“酒を注ぐ”という行為、それは日本において伝統的な文化の一つなのであるが、それに非常な抵抗を覚える。だが、多くの日本人はその事実を知らず、ムハメットさん自身も酒宴の雰囲気を崩さないようにと本当のことを言いづらいという。無知”であるということがどれほど恐ろしいことか。相手の文化を知るために、今まで関わりのなかった分野に足を一歩踏み入れてみるのも良いかもしれない。